

平成 30（2018）年度 学習院大学 卒業生調査

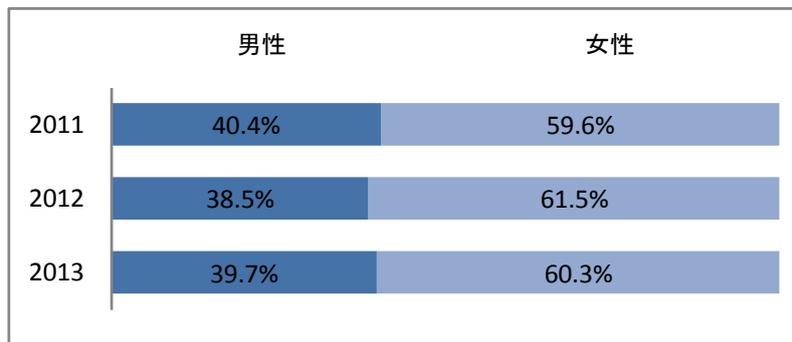
第 1 章 基本集計結果

調査概要

調査目的	本学卒業生の大学在学中の学習や諸経験が卒業後のキャリアや生活とどのような関係にあるのかを検証すること。
調査対象	平成 30 年度実施：平成 24 年度卒の学部卒業生（2013 年 3 月卒業、「2013」群と表記） ※本報告書では、あわせて平成 29 年度・平成 28 年度実施の回答を集計・分析する。 平成 29 年度実施：平成 23 年度卒の学部卒業生（2012 年 3 月卒業、「2012」群と表記） 平成 28 年度実施：平成 22 年度卒の学部卒業生（2011 年 3 月卒業、「2011」群と表記）
調査時期	平成 30（2018）年 11 月 7 日～平成 31（2019）年 2 月 19 日
調査方法	郵送にて依頼状を送付し、郵送にて返送あるいは Web 上のアンケートフォームにて回答
調査項目	Q01…フェイスシート 性別、年齢、学科、入試方式、配偶者、子ども、現住所 Q02…高校時代の学習習慣 Q03…高校までの海外経験 Q04…高校の成績（相対的かつ主観的な成績。上位・下位など） Q05…卒業した学科への入学決定の経緯 Q06…大学時代の授業科目その他への取り組み意欲 Q07…大学時代に楽しみだった科目 Q08…大学時代の学習時間（1 週間あたり） Q09…大学時代の学習習慣 Q10…大学時代の成績（相対的かつ主観的な成績。上位・下位など） Q11…大学時代の課外活動への取り組み意欲 Q12…大学時代の留学経験 Q13…卒業論文・卒業研究の経験有無 Q14…卒業論文・卒業研究執筆時に意識したこと Q15…卒業論文・卒業研究の意義 Q16…大学時代に身につけた知識や能力 Q17…大学時代の環境や学生生活の満足度 Q18…卒業した直後の状況 Q19…卒業した直後の仕事の内容 Q20…卒業直後から現在までの就業状況 Q21…現在の仕事の内容 Q22…海外での勤務・生活経験 Q23…キャリアのための学習活動 Q24…仕事に役立っている大学時代の学びや経験 Q25…大学でもっと熱心に取り組めばよかったこと Q26…現在の仕事への満足度 Q27…現在身につけている知識や能力 (Q16 と同様の項目で多少の文言が調整されている)

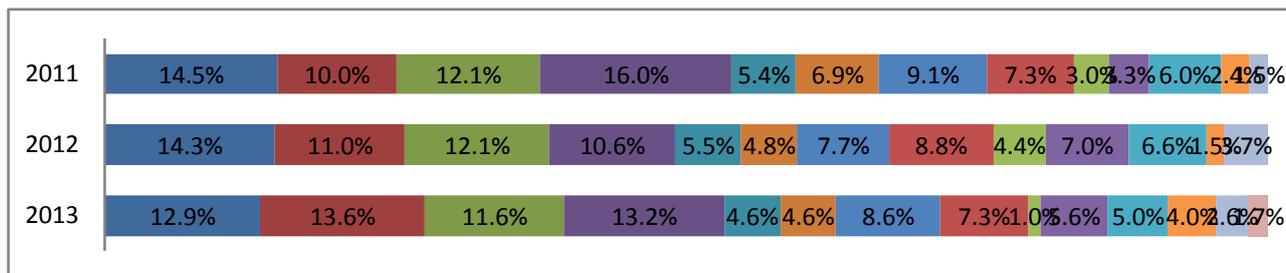
Q01 回答者属性

回答者の性別と年齢



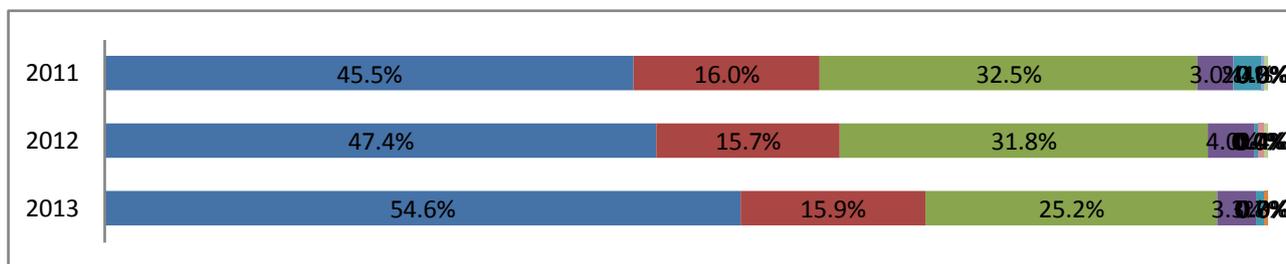
	男性	女性	平均年齢	最低年齢	最高年齢
2011	134	198	27.4	26	55
2012	106	169	27.5	26	35
2013	120	182	27.5	26	32

学科別回答人数



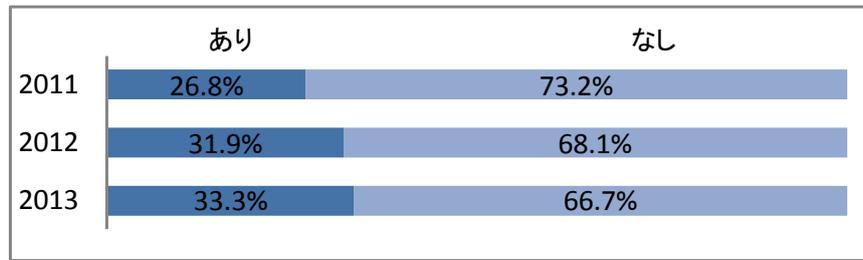
	1. 法学科	2. 政治学科	3. 経済学科	4. 経営学科	5. 哲学科	6. 史学科	7. 日本語日本文学科	8. 英語英米文化学科	9. ドイツ語圏文化学科	10. フランス語圏文化学科	11. 心理学科	12. 物理学科	13. 化学科	14. 数学科	15. 生命科学科
2011	48	33	40	53	18	23	30	24	10	11	20	8	8	5	
2012	39	30	33	29	15	13	21	24	12	19	18	4	6	10	
2013	39	41	35	40	14	14	26	22	3	17	15	12	11	8	5

入学にあたっての入試方式

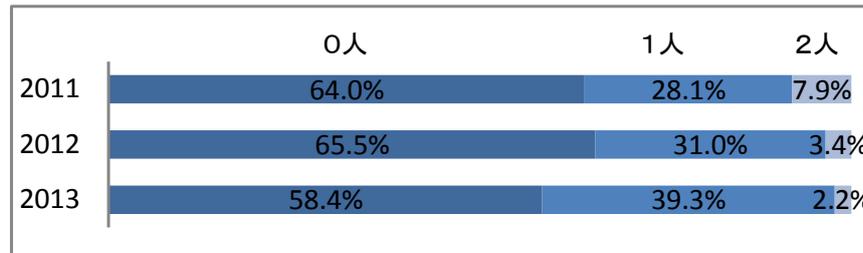


	1. 一般入試	2. 男女高等学校からの進学	3. 指定校推薦入試	4. 公募制推薦入試	5. 海外帰国生入試	6. 外国人学生特別入試	7. 社会人入試	8. 編入学試験	9. 転部・転科
2011	151	53	108	10	8	0	1	0	1
2012	130	43	87	11	1	0	0	1	1
2013	165	48	76	10	2	1	0	0	0

配偶者の有無



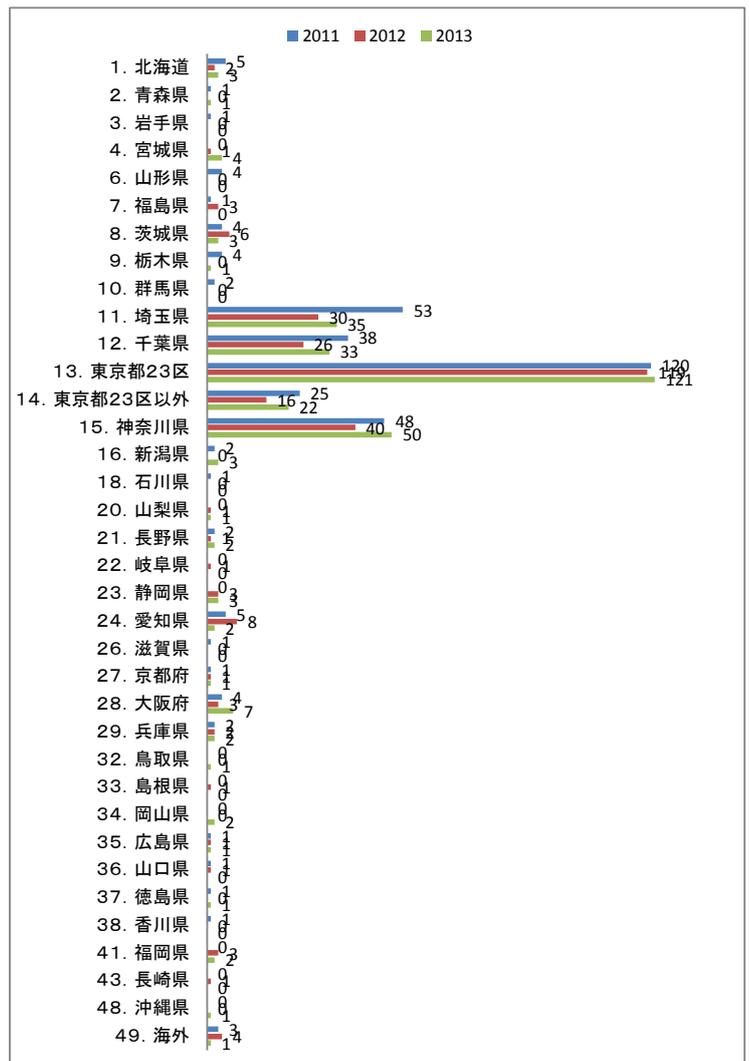
子供の人数



※ 配偶者ありの人数を 100%として計算。

現在のお住まい

	2011	2012	2013
1. 北海道	5	2	3
2. 青森県	1	0	1
3. 岩手県	1	0	0
4. 宮城県	0	1	4
6. 山形県	4	0	0
7. 福島県	1	3	0
8. 茨城県	4	6	3
9. 栃木県	4	0	1
10. 群馬県	2	0	0
11. 埼玉県	53	30	35
12. 千葉県	38	26	33
13. 東京都23区	120	119	121
14. 東京都23区以外	25	16	22
15. 神奈川県	48	40	50
16. 新潟県	2	0	3
18. 石川県	1	0	0
20. 山梨県	0	1	1
21. 長野県	2	1	2
22. 岐阜県	0	1	0
23. 静岡県	0	3	3
24. 愛知県	5	8	2
26. 滋賀県	1	0	0
27. 京都府	1	1	1
28. 大阪府	4	3	7
29. 兵庫県	2	2	2
32. 鳥取県	0	0	1
33. 島根県	0	1	0
34. 岡山県	0	0	2
35. 広島県	1	1	1
36. 山口県	1	1	0
37. 徳島県	1	0	1
38. 香川県	1	0	0
41. 福岡県	0	3	2
43. 長崎県	0	1	0
48. 沖縄県	0	0	1
49. 海外	3	4	1

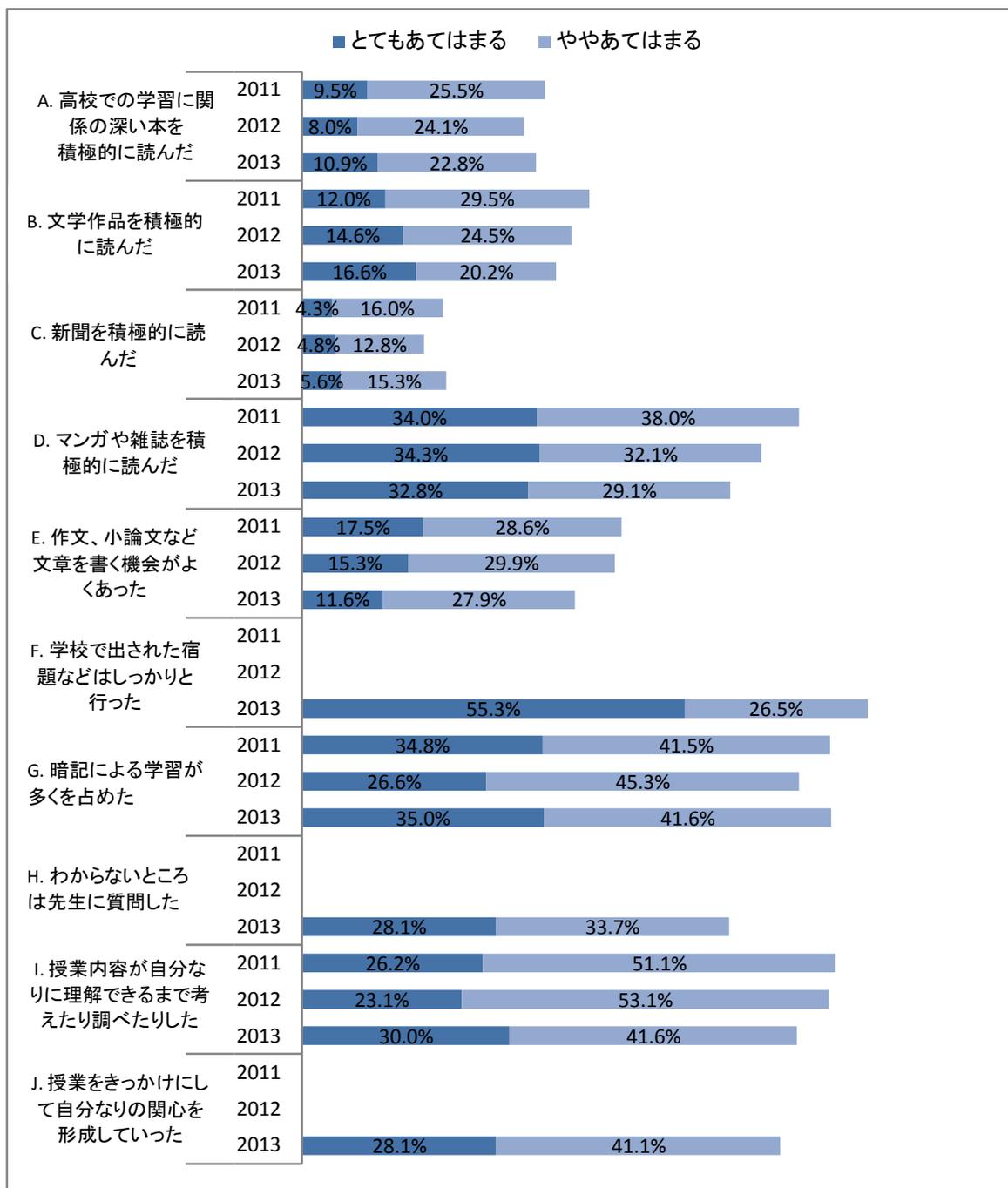


※ 2011年卒・2012年卒・2013年卒の全てで人数が0人の都道府県は記載していない。

大学入学時点までのことがら

Q02 高校時代のあなたの習慣について、あてはまるものを1つ選んでください。

(「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



●高校時代から習慣化されていたもの（「あてはまる」、「ややあてはまる」の合算が高い項目）

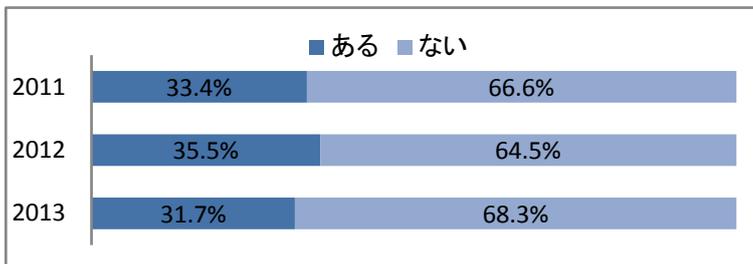
GやIは、どの学年でも7割以上の学生が行っていた。2013群で新規項目としたFやH、Jは少なくとも6割が高校時代に行っており、主体的な学習方法が高校時代から習慣化されていたといえる。マンガや雑誌もよく読まれているが、年々減少傾向にあることが見受けられる。

●高校時代には習慣化されていなかったもの

A～Cは習慣になっていない割合が多く、特にCは習慣になっていなかったようである。Eの文章を書く機会が年々減少傾向にあり、今後も継続的な確認が必要である。

Q03 あなたは、中学・高校時代に、海外で過ごした経験（留学や短期研修旅行、修学旅行なども含む）がありますか。

（経験の有無と経験ありの場合日数）

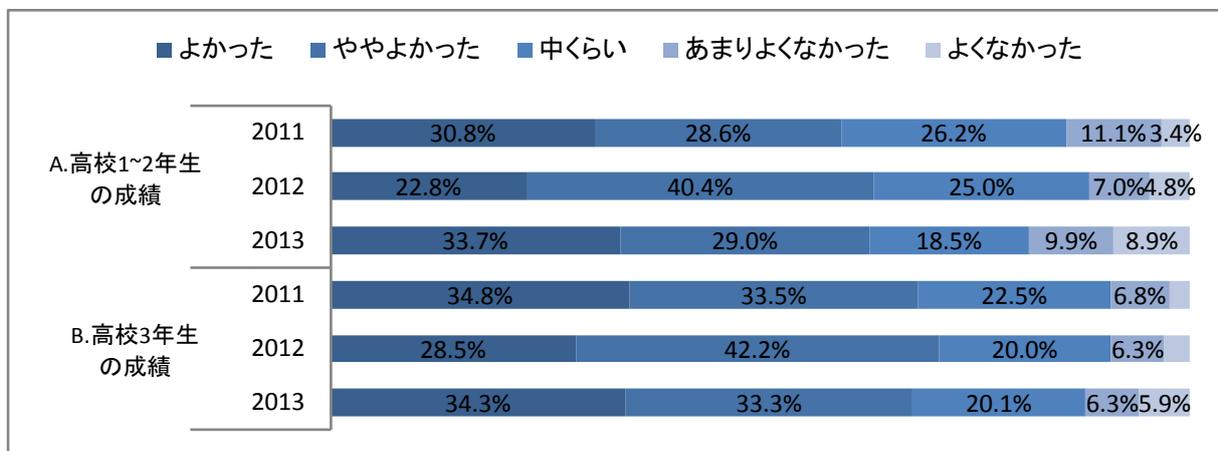


	2011	2012	2013
1週間未満	4	16	12
1週間以上2週間未満	30	20	22
2週間以上1ヶ月未満	44	35	39
1ヶ月以上2ヶ月未満	14	14	9
2ヶ月以上1年未満	4	6	8
1年以上	13	4	2
合計	109	95	92
平均日数	207.2	51.8	50.5

どの学年でも中学・高校時代に海外経験がある卒業生は3割を超える程度であり、変化の傾向は見て取れない。2013年卒で2週間以上のある程度の期間にわたった経験者は58名（海外経験者の63.0%）である。経験日数としては、どの年度でも2週間以上1ヶ月未満が比較的多い割合を占めている。

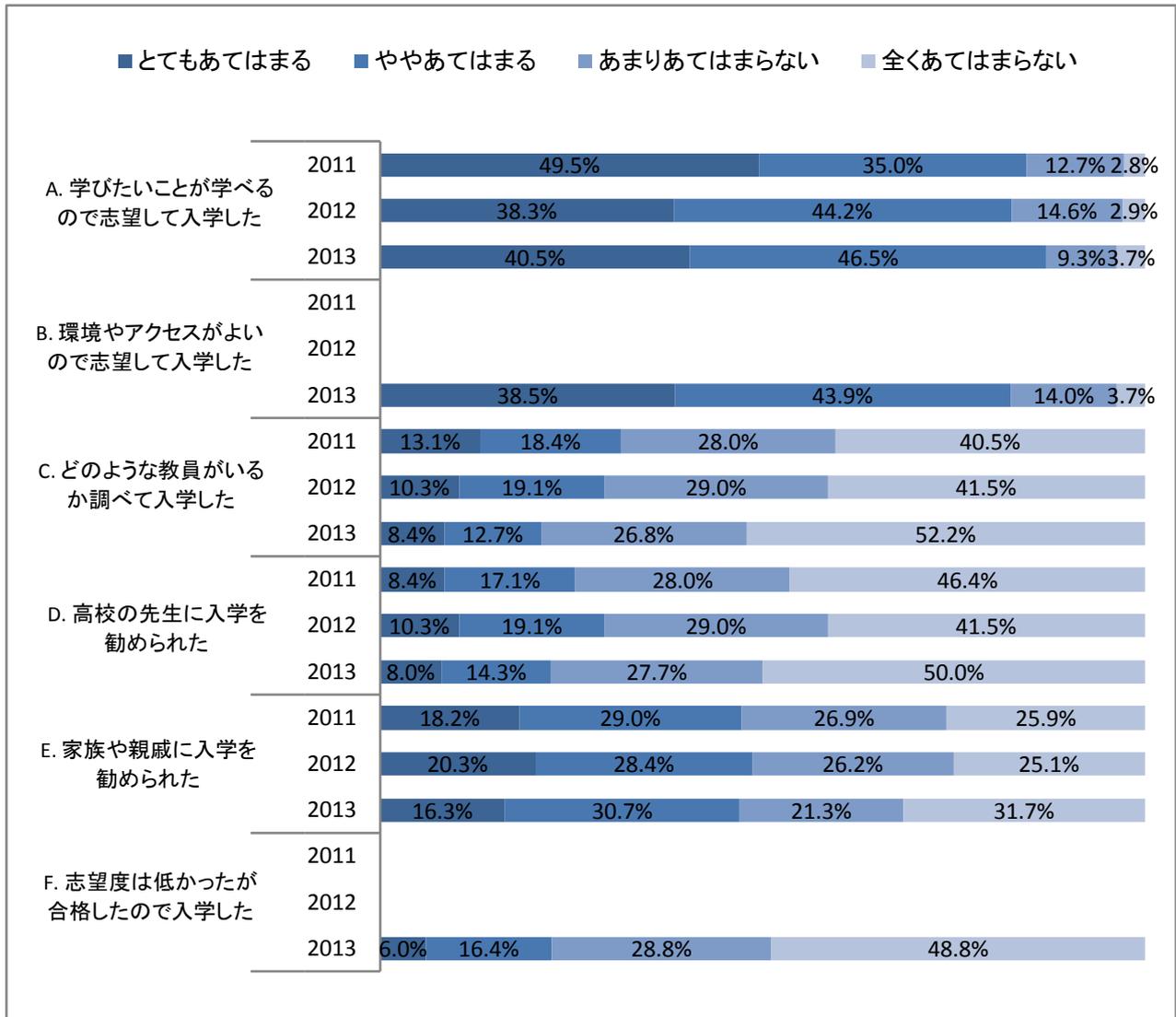
Q04 あなたの高校時代の成績はどのくらいだったと思いますか。

（「よかった」（5）～「中くらい」（3）～「よくなかった」（1）の5件法）



多くの卒業生が、高校時代の成績は「ややよかった」「よかった」と答えている。2013年卒は2012年卒に比べて、「よかった」と答える割合は増え、「ややよかった」と答える割合が減り、総じて見ると「ややよかった」以上の割合は減る結果となった。

Q05 あなたが卒業した学科への入学について、あてはまるものを1つ選んでください。
 (「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



※ Aは2011年卒・2012年卒では「強く希望して入学した」と尋ねた。B・Fは2013年卒からの新規項目。

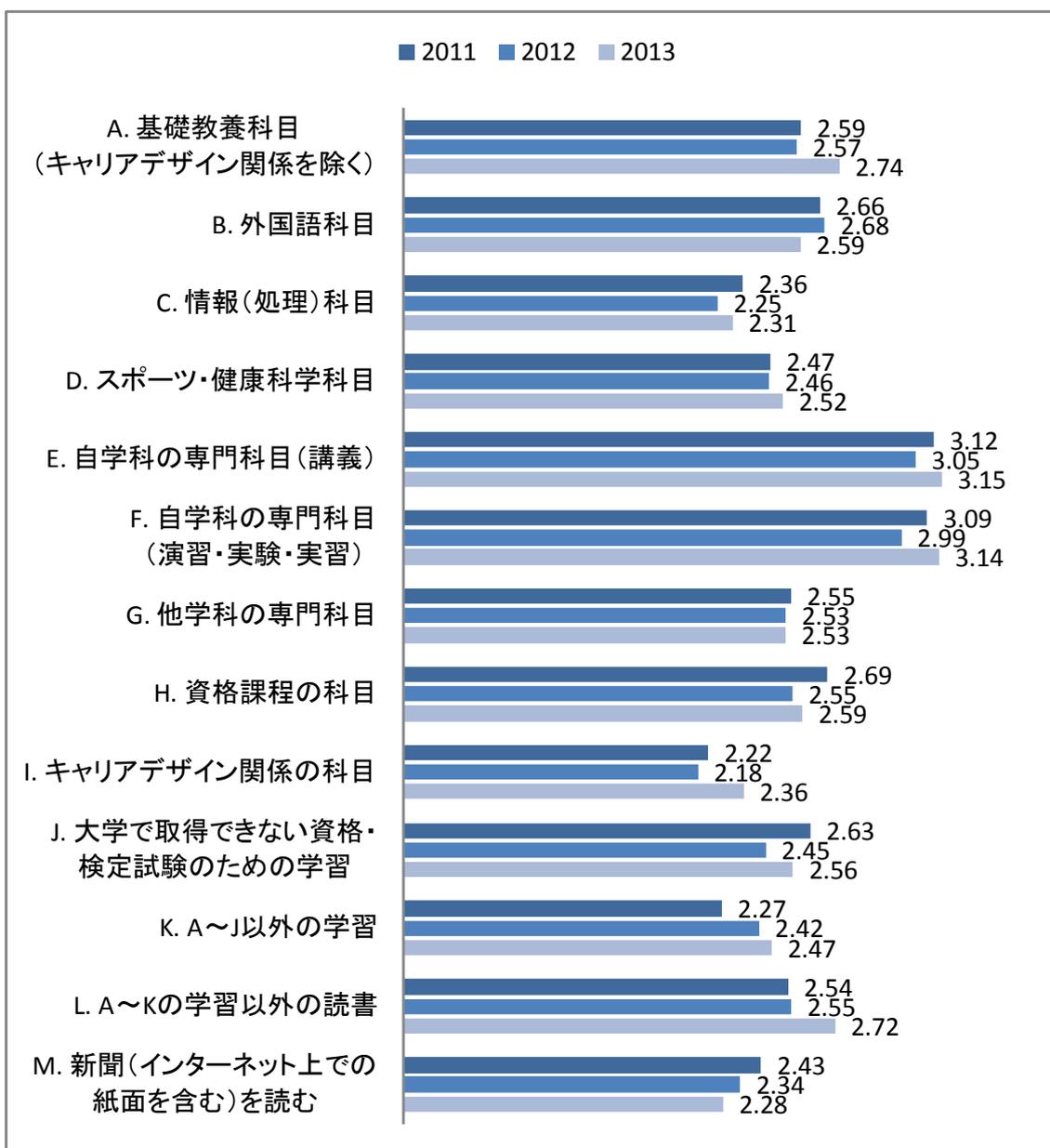
2013年卒に対しては、過年度に「A.強く希望して入学した」としていた項目を、上記のようにA.B.と志望した理由を詳細に尋ねた。結果として、学べる学問分野も、環境面も評価が高いことがうかがえる。

どのような教員がいるかまで調べた卒業生は少なく、また年々減少傾向にある。

また、2013年卒に対しては、不本意入学だったかどうかを尋ねる項目を新規に設けたところ、とても当てはまる・ややあてはまるの合計で2割強であった。

大学時代における学習や課外活動

Q06 あなたは、大学在学中、大学の授業やその他の学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。授業時間外の予習や復習なども考慮して、あてはまるものを1つ選んでください。（「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」（4）～「全く意欲的でなかった」（1）の5件法）

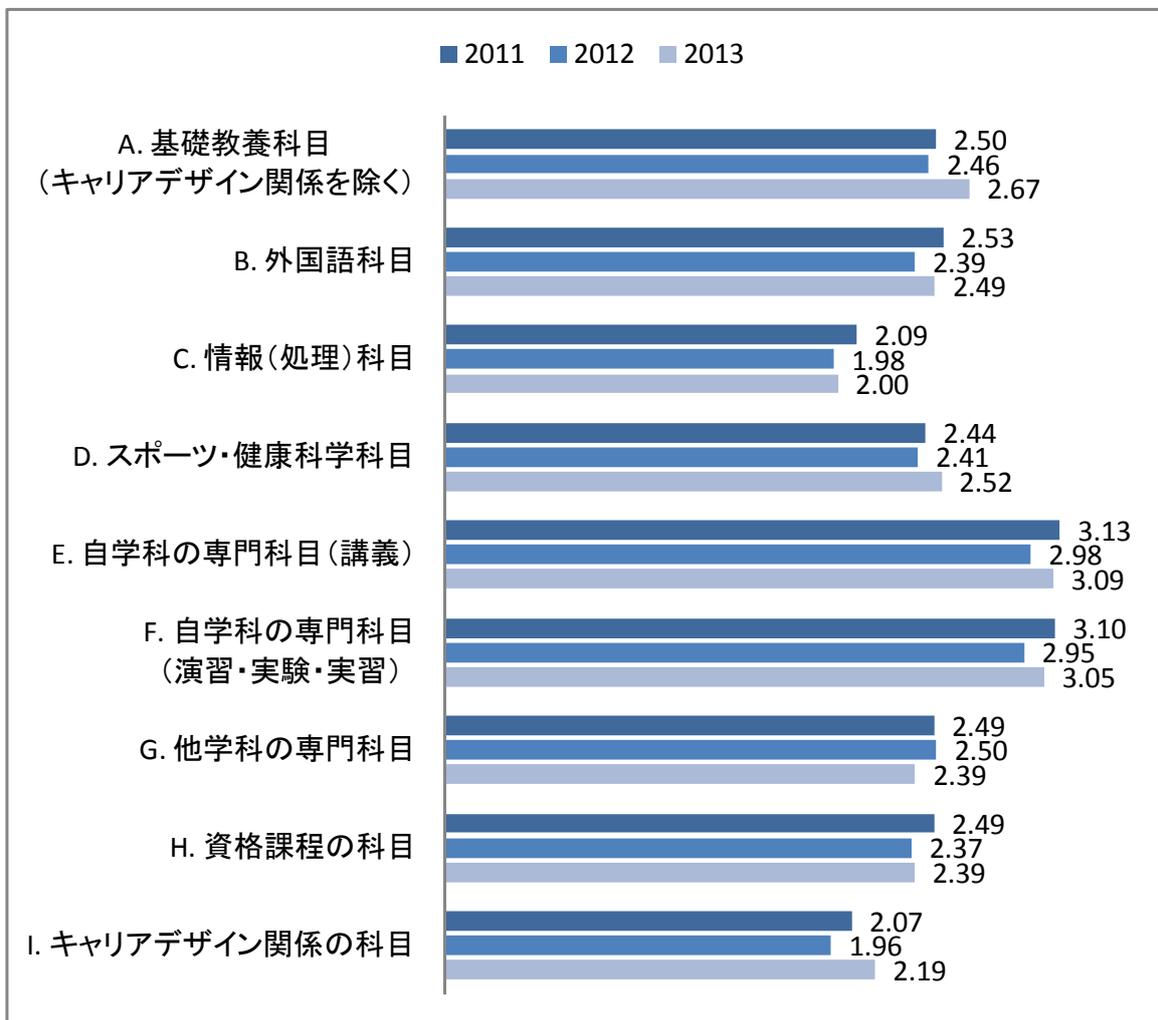


※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

どの学年でも、自学科の専門科目については授業の形態にかかわらず高い意欲で取り組んでいたことがうかがえる。この3学年では学年間の違いはあまり見られないものの、KやLといった大学外での学習への意欲が若干高まりつつあるように見受けられる。大学での学習に意欲的に取り組みながら、大学外での自らの興味に根差した学習を行う学生が増え、学習行動のバリエーションがより広がっていく前兆と捉えることもできるかもしれない。

Q07 あなたは、大学の授業の中で、授業を受けることが楽しみだった科目はどの程度ありましたか。

（「経験しなかった」を0として、「5割以上あった」（4）～「ほとんどなかった」（1）の5件法）

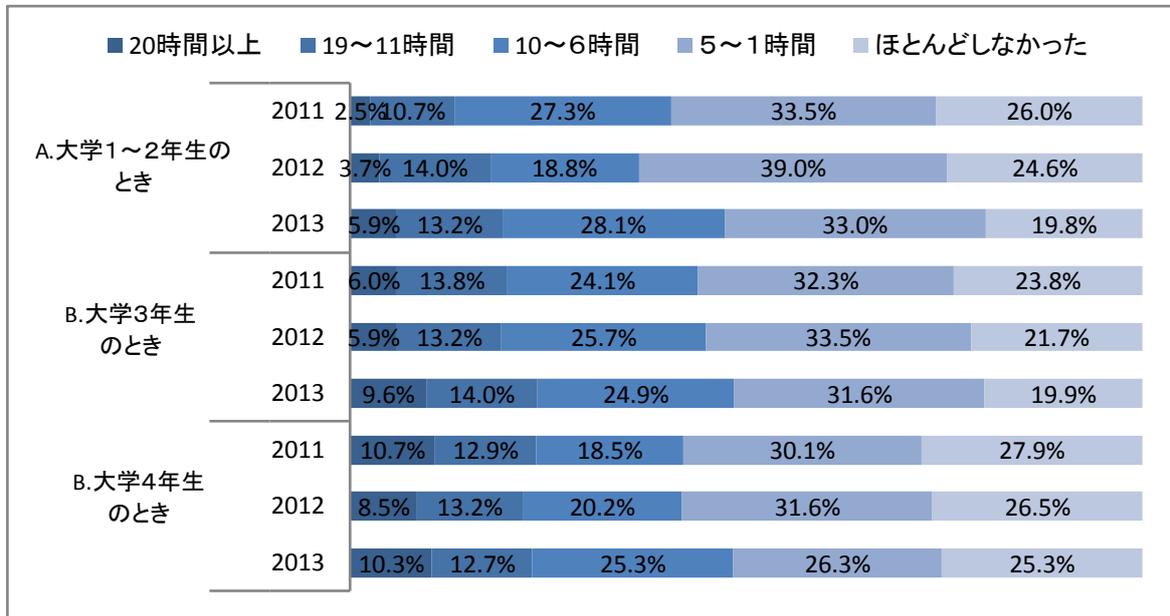


※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

自学科の専門科目については、意欲の項目と同様に平均が高く、多くの卒業生が楽しみにしていたことがうかがえる。比較すると、情報（処理）科目やキャリアデザイン関係の科目などは平均が低かった。全体として、前2年度と同様の傾向であり、経年的な変化は見受けられなかった。

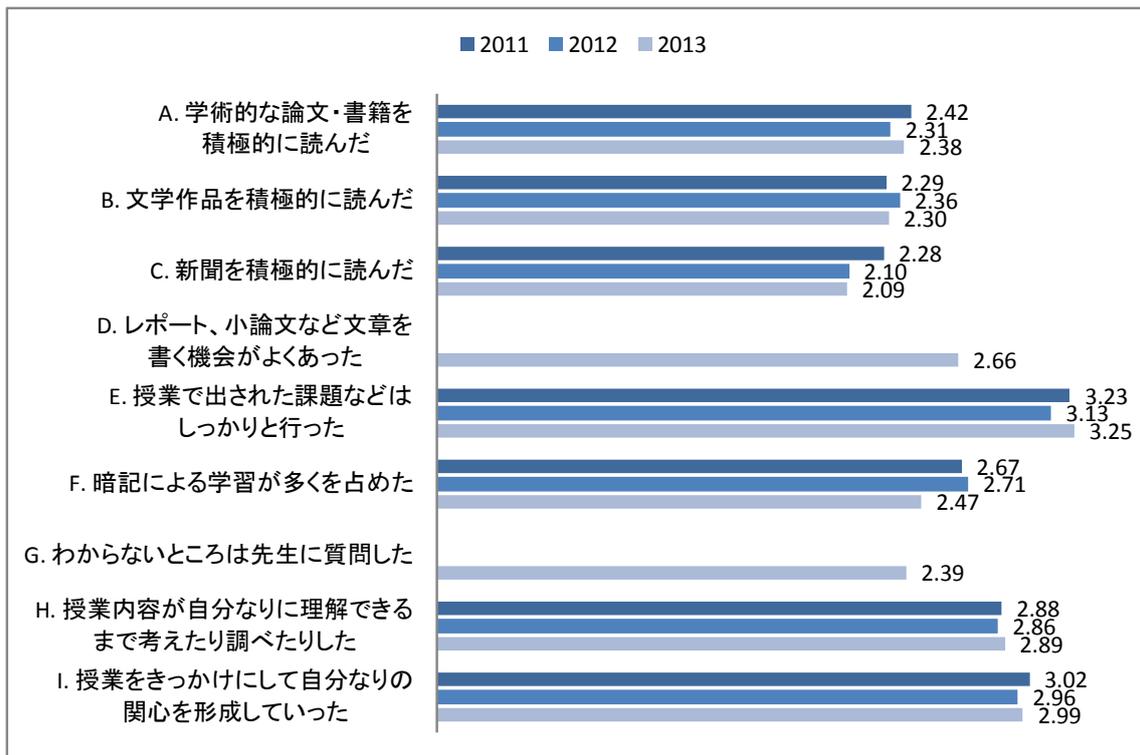
Q08 あなたは、大学在学中、1週間あたり平均でどのくらい「自学自習」（授業の予習・復習、レポート作成、授業とは関係のない学習などを含む日常的な学習時間で、定期試験のための学習時間は除きます）をしていましたか。

（「20時間以上」（5）～「ほとんどしなかった」（1）の5件法）



2013年卒の卒業生は、過去2年度間と比較して、A～B全ての時期で学習時間が週5時間以下の割合が減少した。しかし、大きな変化ではないことから、どの学年においても大学1～2年生までに身についた習慣がその後も維持された結果とみるのが自然であると思われる。

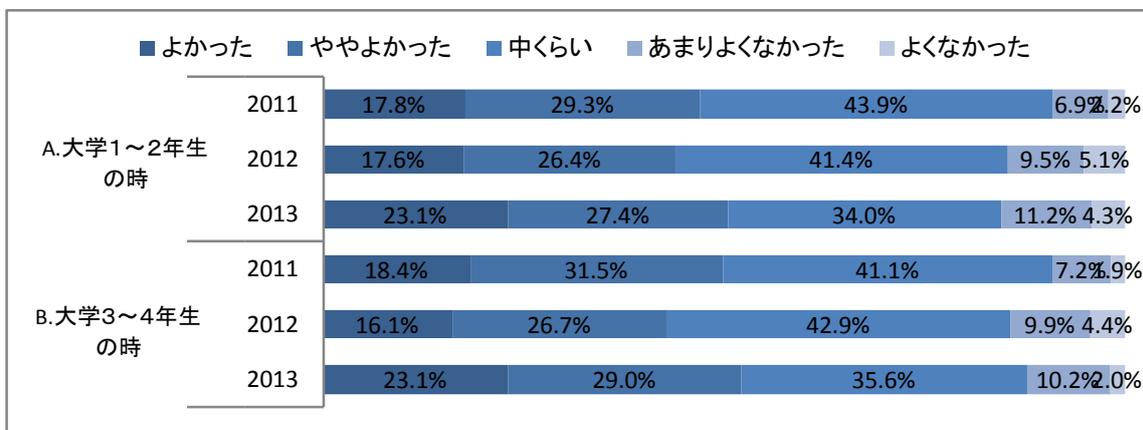
Q09 あなたは、大学在学中、どのような学び方をしてきましたか。
 (「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



※ D、Gは2013年卒からの新規項目。

3学年ともに尋ねた項目では、平均値の傾向はあまり変化がなかったが、Fが若干低下しているように見受けられた。新規項目については、Dは比較的行われやすく、Gは比較的行われにくい学習方法であることがうかがえる。高校時代のこの項目と高低が逆になっていることは、注意すべきと思われる。

Q10 あなたの大学在学時の成績はどのくらいだったと思いますか。
 (「よかった」(5)～「中くらい」(3)～「よくなかった」(1)の5件法)

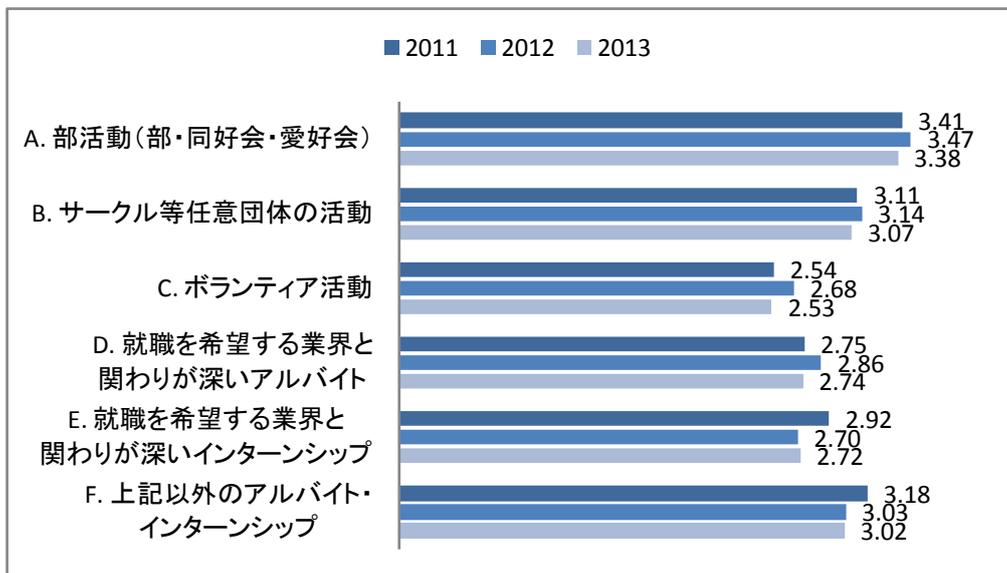


どの学年においても、中くらいと答えた卒業生が最も多く、よかった・ややよかったを合わせて4～5割程度が良い成績を取っていたと自覚する傾向に変わりがないことがうかがえる。

Q11 あなたは、大学在学中、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。

(「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」(1)の5件法)

卒年・項目別平均値



※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

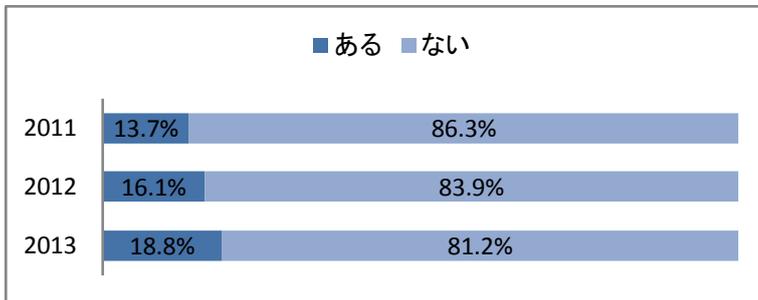
経験者の人数と割合

	2011		2012		2013	
	経験者数	割合	経験者数	割合	経験者数	割合
A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	178	55.5%	149	55.0%	168	55.4%
B. サークル活動	166	52.2%	138	50.7%	163	53.8%
C. ボランティア活動	81	25.2%	81	29.9%	72	23.9%
D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	111	34.7%	95	34.9%	99	32.8%
E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	95	29.8%	81	29.9%	72	23.8%
F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	228	71.5%	212	78.2%	222	73.5%

2013年卒の卒業生では、部活動やサークル活動への参加率は5割強で、過去2年度と同様の傾向であった。そのほかのボランティア活動やアルバイト・インターンシップへの参加率も大きな変化がなく、この間の課外活動等への参加状況は安定していたといえるだろう。

Q12 あなたは、大学在学中、留学（海外短期研修や国際ボランティアなどを含みますが、単なる海外旅行は除きます）の経験がありますか。

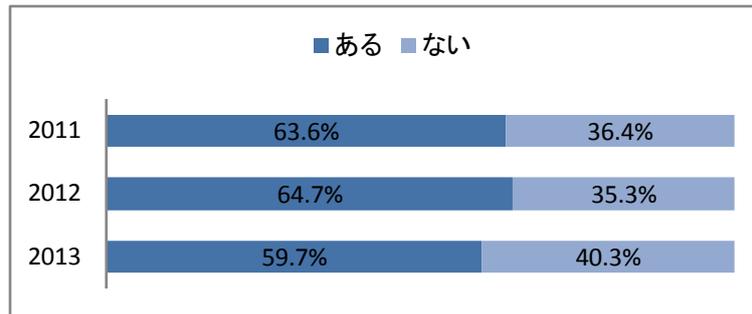
（経験の有無と経験ありの場合日数）



	2011	2012	2013
1週間未満	0	1	2
1週間以上2週間未満	9	2	3
2週間以上1ヶ月未満	10	9	19
1ヶ月以上2ヶ月未満	14	20	16
2ヶ月以上1年未満	9	9	13
1年以上	2	3	4
合計	44	44	57
平均日数	60.3	77.8	64.0

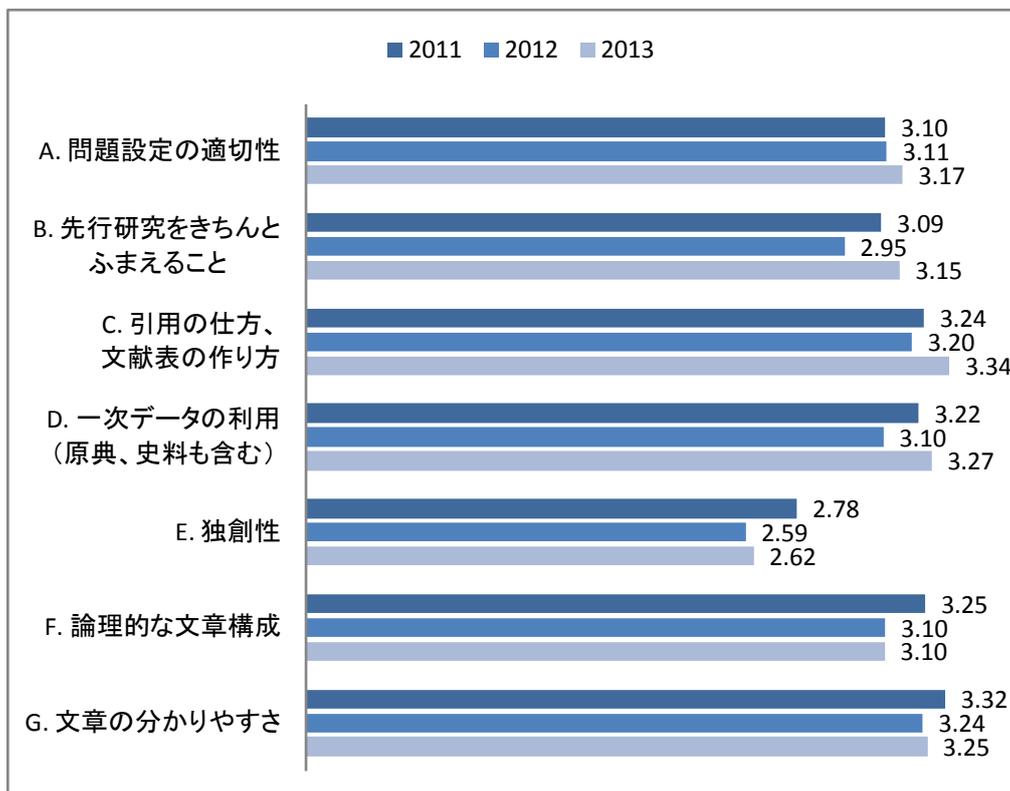
留学経験に関しては、経験ありの割合が徐々に増えてきている様子が見受けられる。その日数は、2013年卒の平均は2012年卒より短くなったが、2週間以上1ヶ月未満と2ヶ月以上1年未満の人数が増え、1ヶ月以上2ヶ月未満の人数が減少した。合計人数の増加に最も貢献しているのは、2週間以上1ヶ月未満の留学経験者であると見受けられる。

Q13 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を執筆しましたか。
（経験の有無）



Q14 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を書くときに、以下の点をどのくらい意識していましたか。

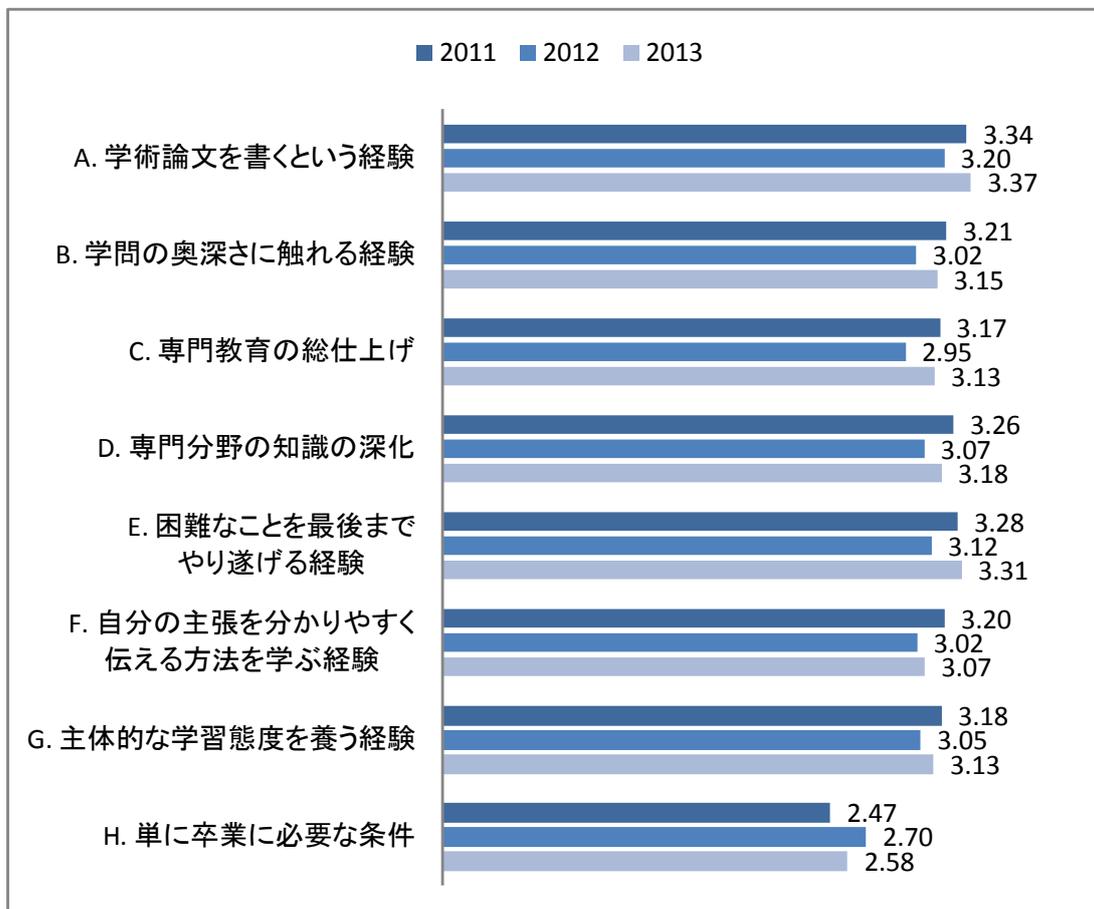
（「とても意識した」（4）～「全く意識しなかった」（1）の4件法）



2013年卒の卒業論文・卒業研究の経験者は、2011年卒・2012年卒に比較して若干減少した。執筆にあたって意識した点で最も平均が高かったのは、2011年卒・2012年卒ではGであったが、2013年卒ではCとなっており、執筆時の注意点が若干変化しているように見受けられる。しかし、どの学年でもEの平均が最も低く、卒業論文や卒業研究では、独創性が意識されることがそのほかの項目に比べて相対的に多くないことは共通している。

Q15 今のあなたにとって、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）の執筆にはどのような意義があったと思いますか。

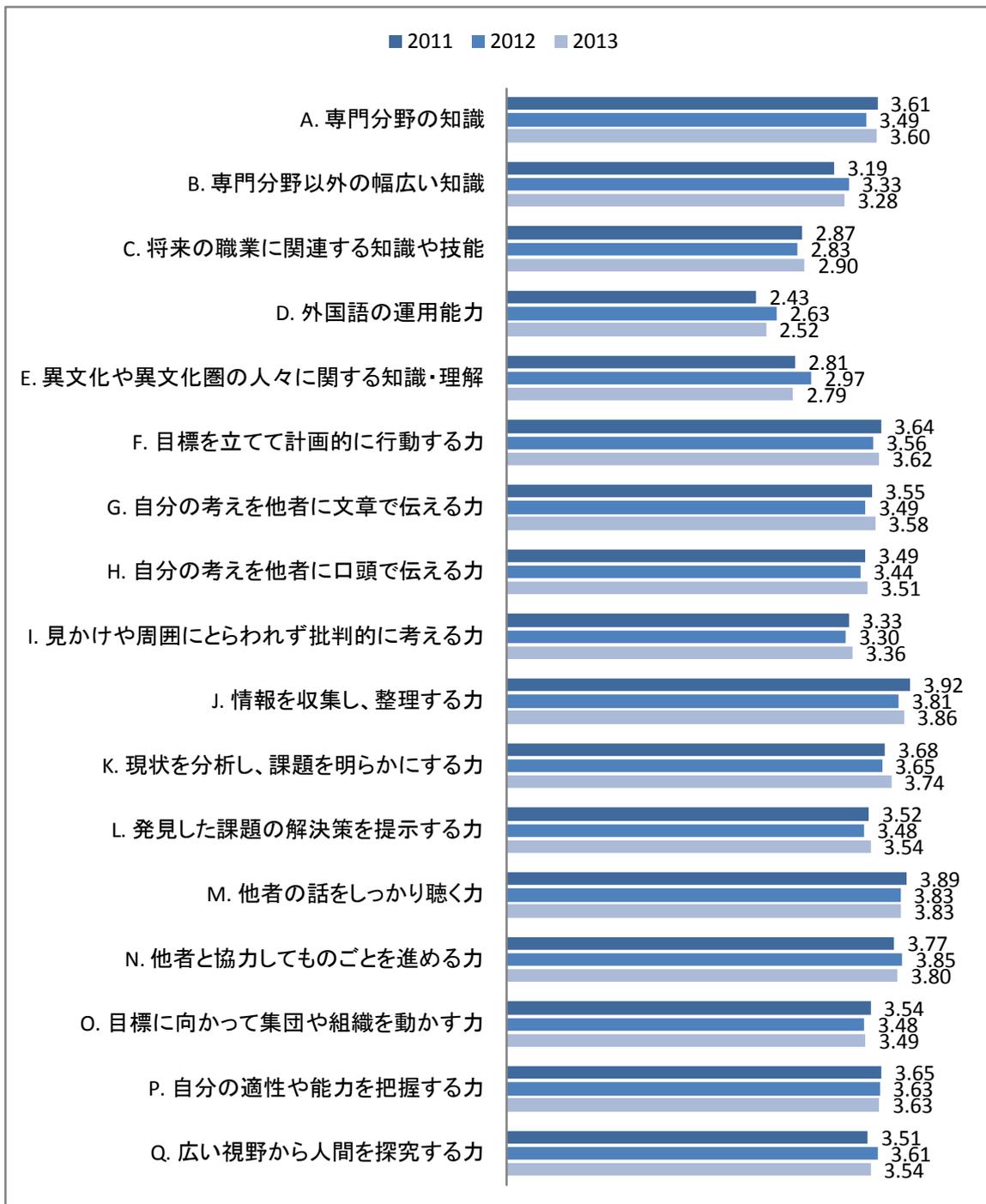
（「とてもあてはまる」（4）～「全くあてはまらない」（1）の4件法）



2011年卒・2012年卒と同様に、2013年卒もH以外のどの項目も一定程度意義として実感されているようである。卒業後5年経過時点で、振り返って卒論・卒研を執筆したという体験の意義を、様々な側面から感じ取っていることがうかがえる。

Q16 大学卒業段階で、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができたと思いますか。

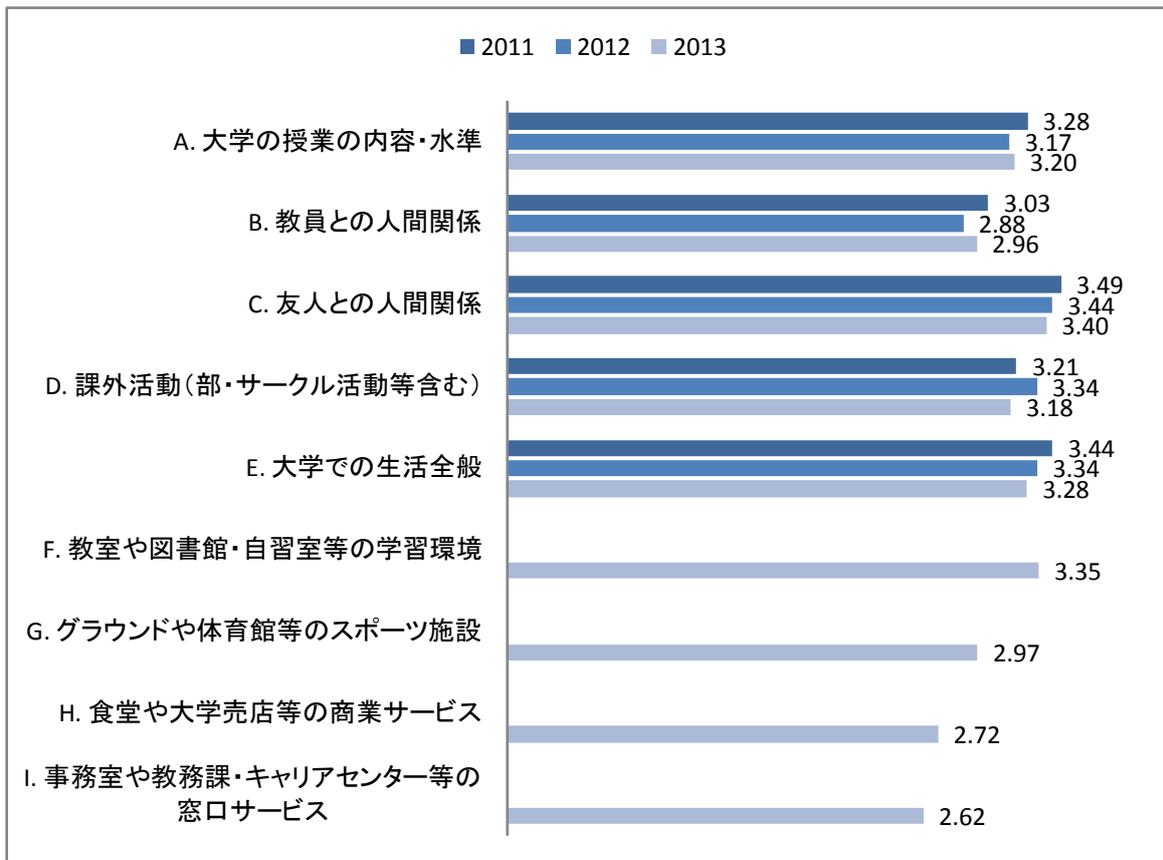
(「しっかり身についた」(5)～「全く身につかなかった」(1)の5件法)



2013年卒も、2011年卒・2012年卒の傾向とほぼ同様であった。平均で4を超える項目はなく、値が高い項目は大学の学習が直結したと考えられる「J.情報を収集し、整理する力」や、M、Nといった他者との協調性に関する項目であった。DやEのような外国語の運用能力や異文化に関する知識・理解の向上が課題であるという点も、3年間を通じて同様であった。

Q17 あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。

(「とても満足している」(4)～「全く満足していない」(1)の4件法)

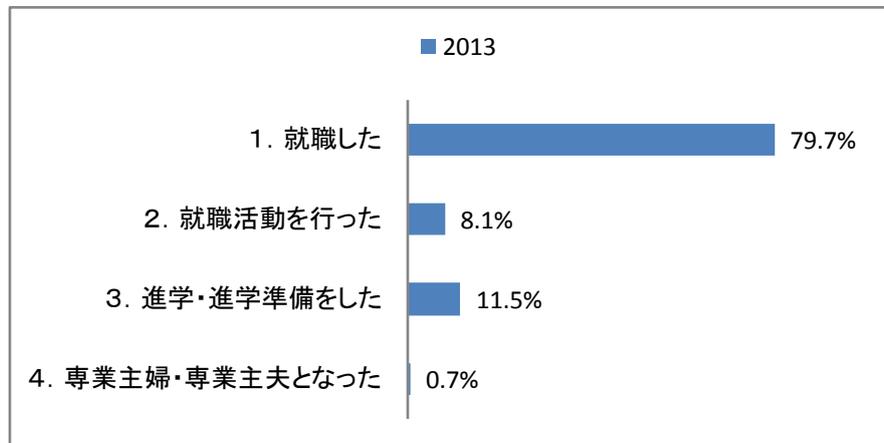


※ F、G、H、Iは2013年卒からの新規項目。

経年で尋ねている項目については、大きな変動は見受けられなかったが、CとEが徐々に低下している傾向が見受けられた。2013年卒から新規に尋ねたF～Iでは、Fは他と比較して高い満足度であるが、G、H、Iのいずれも平均が3未満となった。施設・サービスの活用促進や、質の改善など、満足度向上の余地があるといえるだろう。

大学卒業後のことがら

Q18 あなたが大学を卒業した直後の状況として最もあてはまるものを1つ選んでください。
(1つを選択)

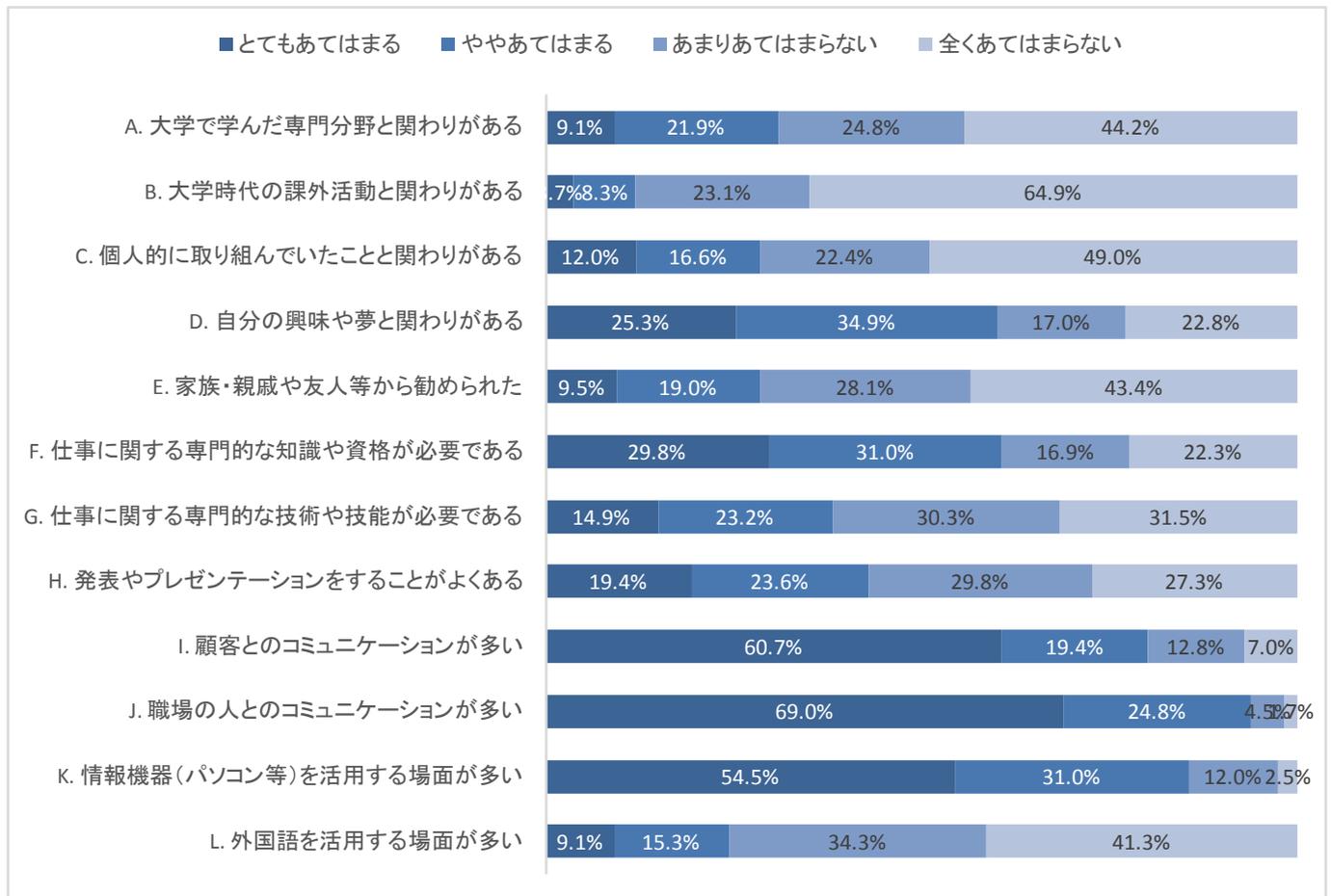


※ 2013年卒より内容を変更した質問のため、2011年卒・2012年卒のデータはない。

アンケートへ回答した卒業生に関して、卒業直後に就職したのは約8割であった。就職活動や進学・進学準備等をせず専業主婦・主夫となったと回答したのは0.7%（2名）であった。

Q19 あなたの大学卒業直後の仕事はどのような内容でしたか。あてはまるものを1つ選んでください。

(「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



※ 2013年卒より内容を変更した質問のため、2011年卒・2012年卒のデータはない。

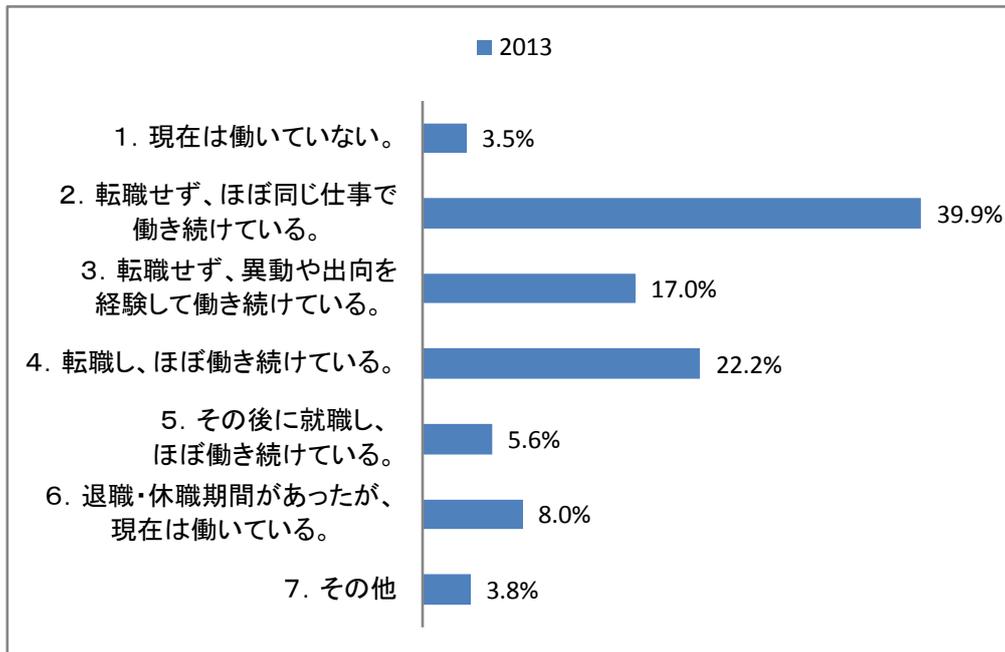
A～Eでは仕事の内容と自身の経験等との関わりについて尋ねた。Dの自身の興味や夢には関わりがあると回答した割合が多いが、大学時代の学びや個人的な取り組み等との関わりは比較的薄い。また、課外活動と関連のある仕事に就いた卒業生はかなり少数派であった。

F～Lでは仕事に必要な能力等について尋ねた。顧客か職場内かに限らずコミュニケーションの必要はやはり高く、さらに情報機器についても85%以上が活用する場面が多いと答えた。専門的な知識や資格は約6割が必要としていた。また、専門的な技術・技能の必要がある、発表やプレゼンテーションの機会が多くあると答えた卒業生はそれぞれ4割程度であった。

外国語については約25%が仕事に活用する場面があるという回答であった。

Q20 あなたの大学卒業直後から現在までの就業状況として、最もあてはまるものを1つ選んでください。

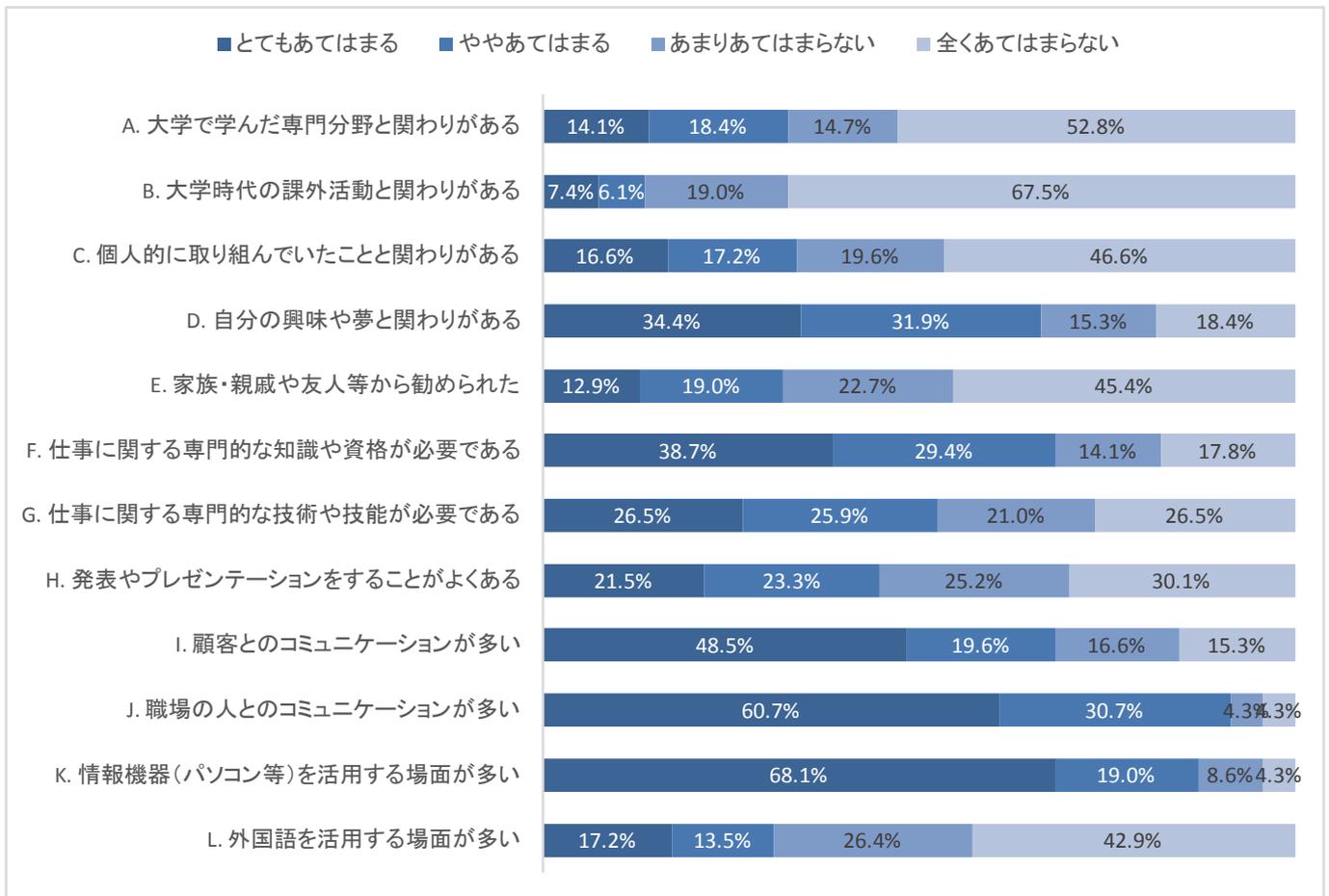
(1つを選択)



回答者のうち、卒業後5年が経過時点で、転職せずほぼ同じ仕事で働き続けている卒業生が約4割、転職せず異動や出向を経験したと回答した卒業生を合わせると、卒業直後の就職から、転職せず働き続けている割合は**56.9%**と半数以上であった。

また、転職や退職・休職の経験者は合わせて約3割であり、その理由が様々であることを考慮にいれつつ、今後の変化について観察が必要である。

Q21 あなたの現在の仕事はどのような内容ですか。あてはまるものを1つ選んでください。
 (「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



Q20 で 3.～7.と回答した卒業生に対して、現在の仕事の内容について Q19 (卒業直後の仕事の内容) と同じ項目で尋ねた。

Q19 の回答と比較して割合に変動が見受けられた項目は D や F であり、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計がそれぞれ 10%程度増加し、自身の興味や夢との関わりや、専門的な知識や資格の必要性が増している。反対に、I は 10%程度、J は 5%程度減少し、顧客や職場の人とのコミュニケーションが若干少なくなる傾向があるようである。

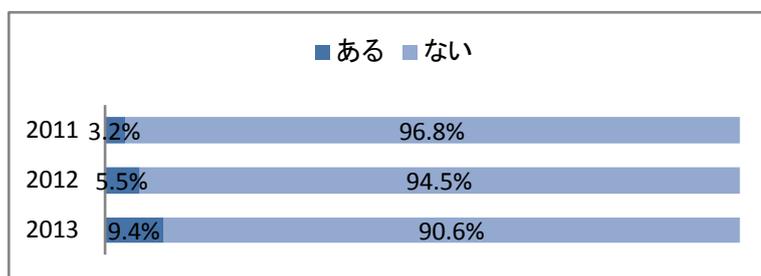
情報機器の活用に関しては、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計は 9 割弱と変わりはないが、とてもあてはまるの割合が増え、活用の頻度が高まった様子が見取れる。

外国語の活用も 5%程度増加し、5 年間の変化が若干見受けられた。

Q22 あなたは、これまでに海外での勤務経験または生活経験がありますか。

(経験の有無と経験ありの場合日数)

経験ありなしの割合



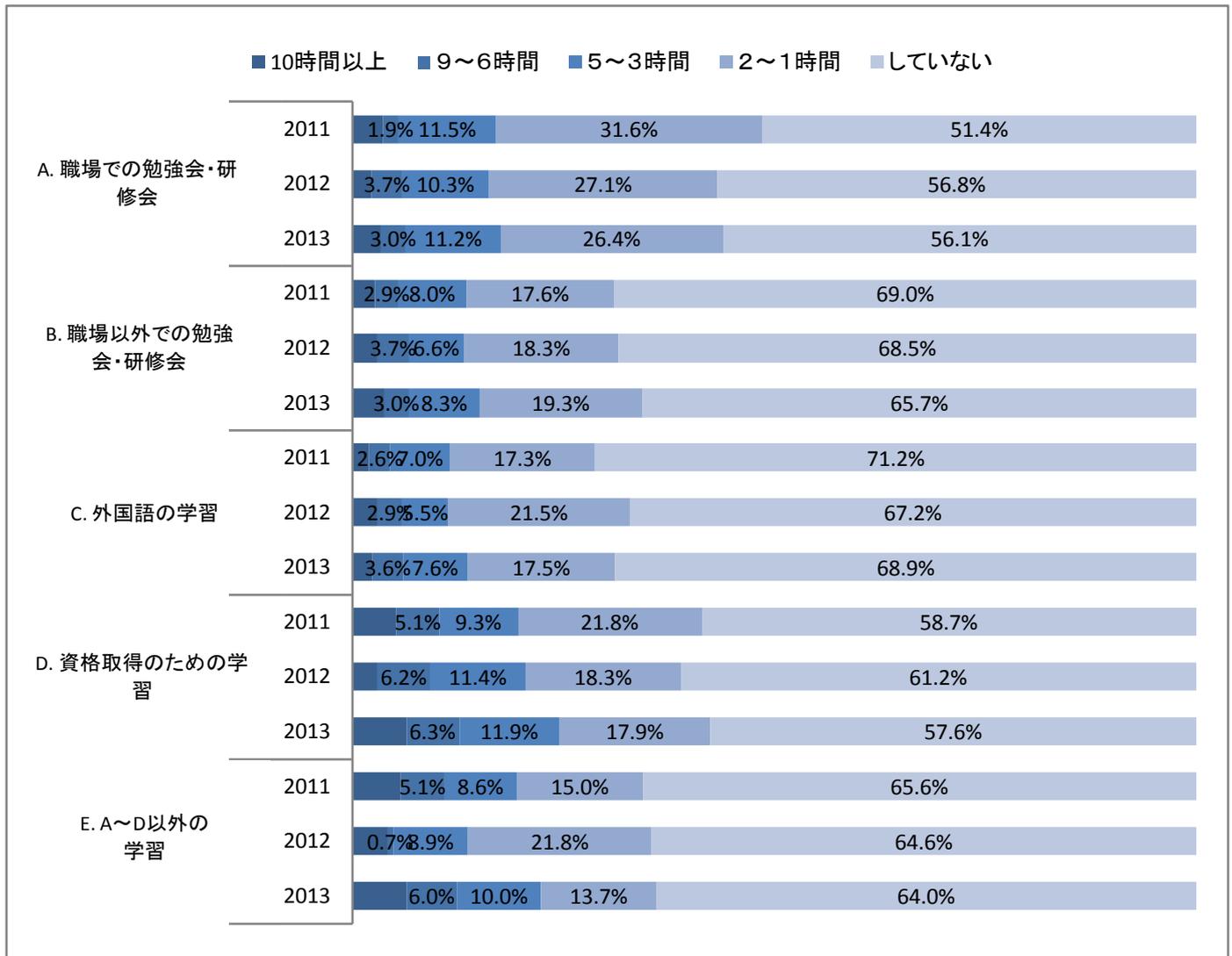
経験者の滞在期間の分布

	2011	2012	2013
1年未満	3	8	12
2年未満	3	3	10
3年未満	1	2	3
4年未満	1	1	1
5年未満	2	1	2
5年以上	0	0	1

海外勤務・海外生活を経験する卒業生の割合は徐々に増えており、期間も1年以上2年未満の経験者人数が多くなるなど長期化の傾向が見受けられる。

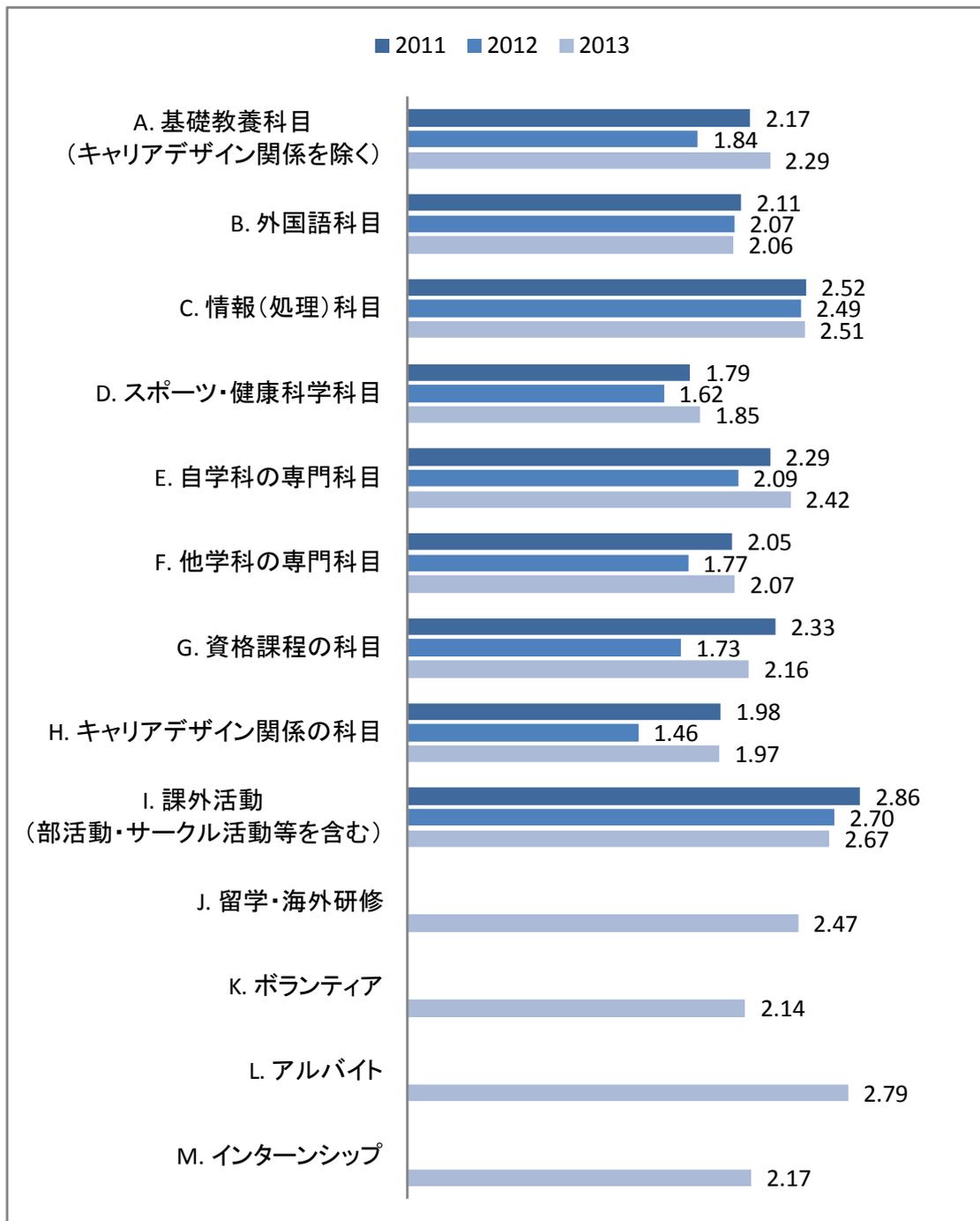
Q23 あなたは、仕事や将来のキャリアのために、以下のような活動を1週間あたり平均でどのくらい行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

(「10時間以上」(5)～「していない」(1)の5件法)



どの学年の卒業生もあまり研修会や学習への時間を取っている様子は見受けられないものの、外国語や資格取得のための学習時間は、少しずつではあるが増えていることがうかがえる。

Q24 大学時代の学びや経験は、あなたの現在の仕事にどのくらい役に立っていると思いますか。
 (「経験しなかった」を0として、「とても役立っている」(4)～「全く役立っていない」(1)の5件法)



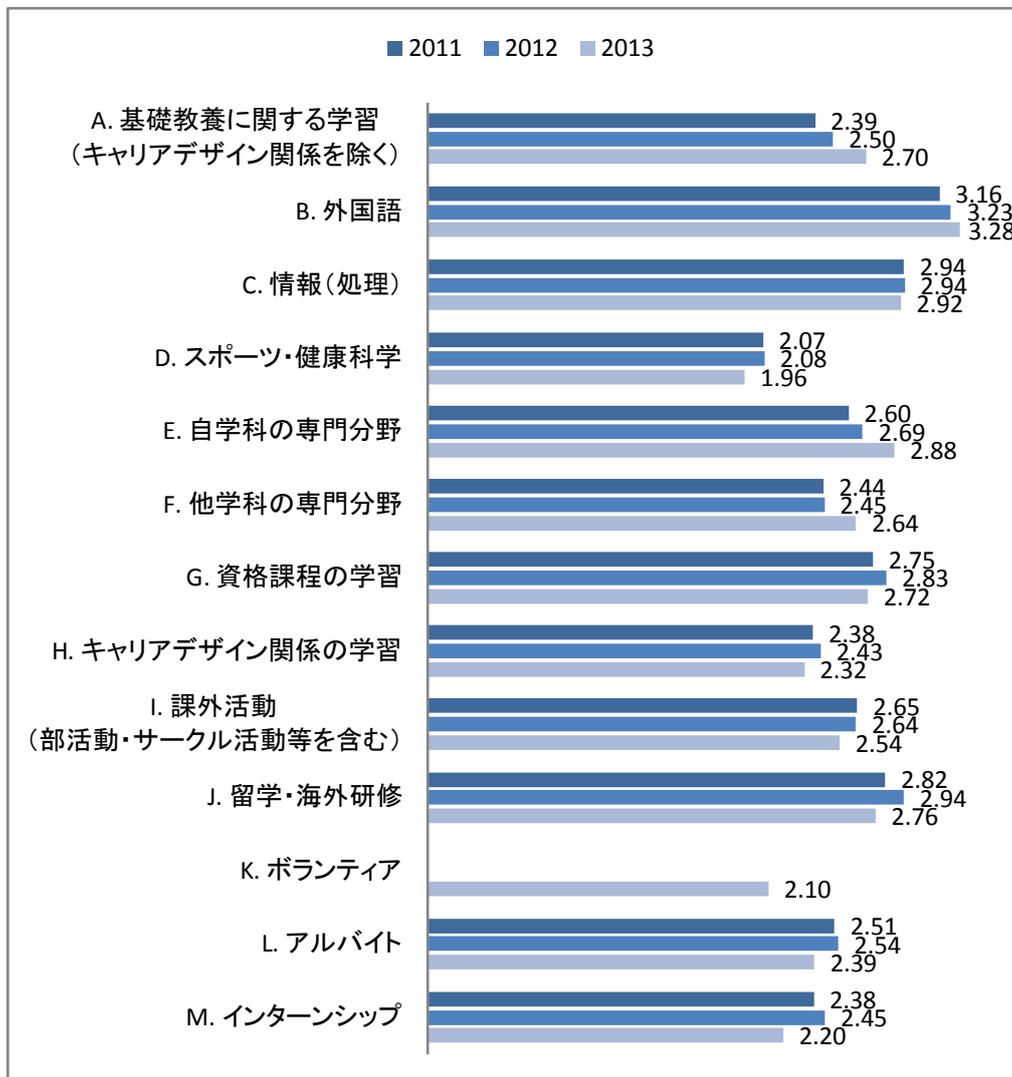
※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

2013年卒は、科目に関しては2011年卒・2012年卒と比較しておおよそ高い平均値であったが、課外活動については若干低い値となった。

J～Mは2013年卒から新規に設けた項目である。これらの中ではアルバイト、留学の順に役立っていると感じられており、インターンシップやボランティアはそれよりは低いものの、基礎教養科目や外国語科目と同程度に役立っていると感じられているという結果であった。

Q25 大学時代を振り返って、もっと熱心に学習や経験しておけばよかったと思うことはありませんか。

(「とてもそう思う」(4)～「全くそう思わない」(1)の4件法)

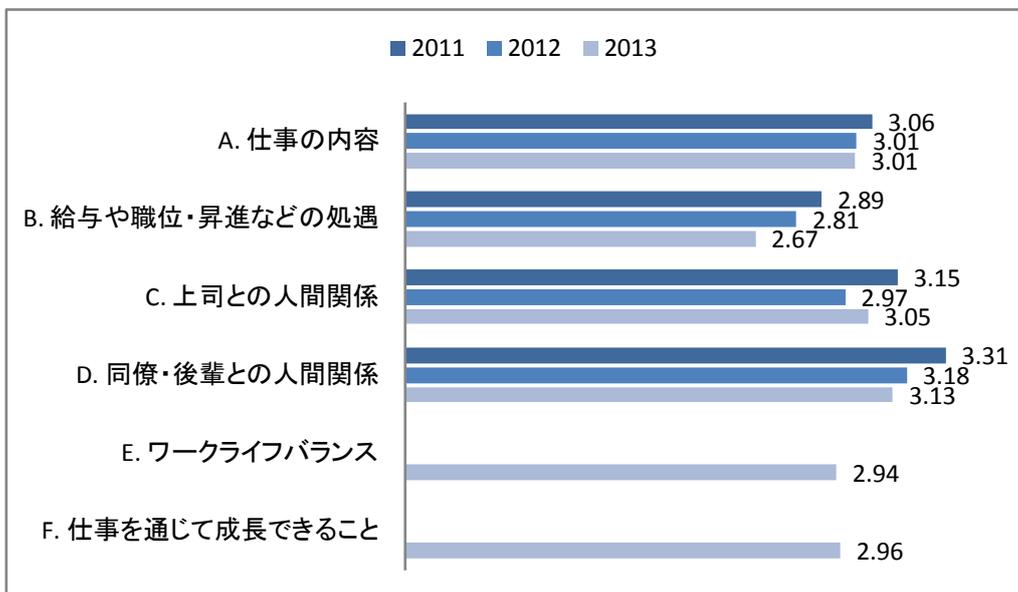


過去2学年と同様に、外国語の学習の回答値が最も高かった。

2013年卒の卒業生は、基礎教養や自学科、他学科の専門分野に関しても過去2学年と比較して高い値だが、アルバイトやインターンシップについては若干低い値であった。2013年卒からボランティアについても新規に尋ねたが、他の項目と比較して低い値であった。

Q26 あなたは、現在の仕事についてどの程度満足していますか。

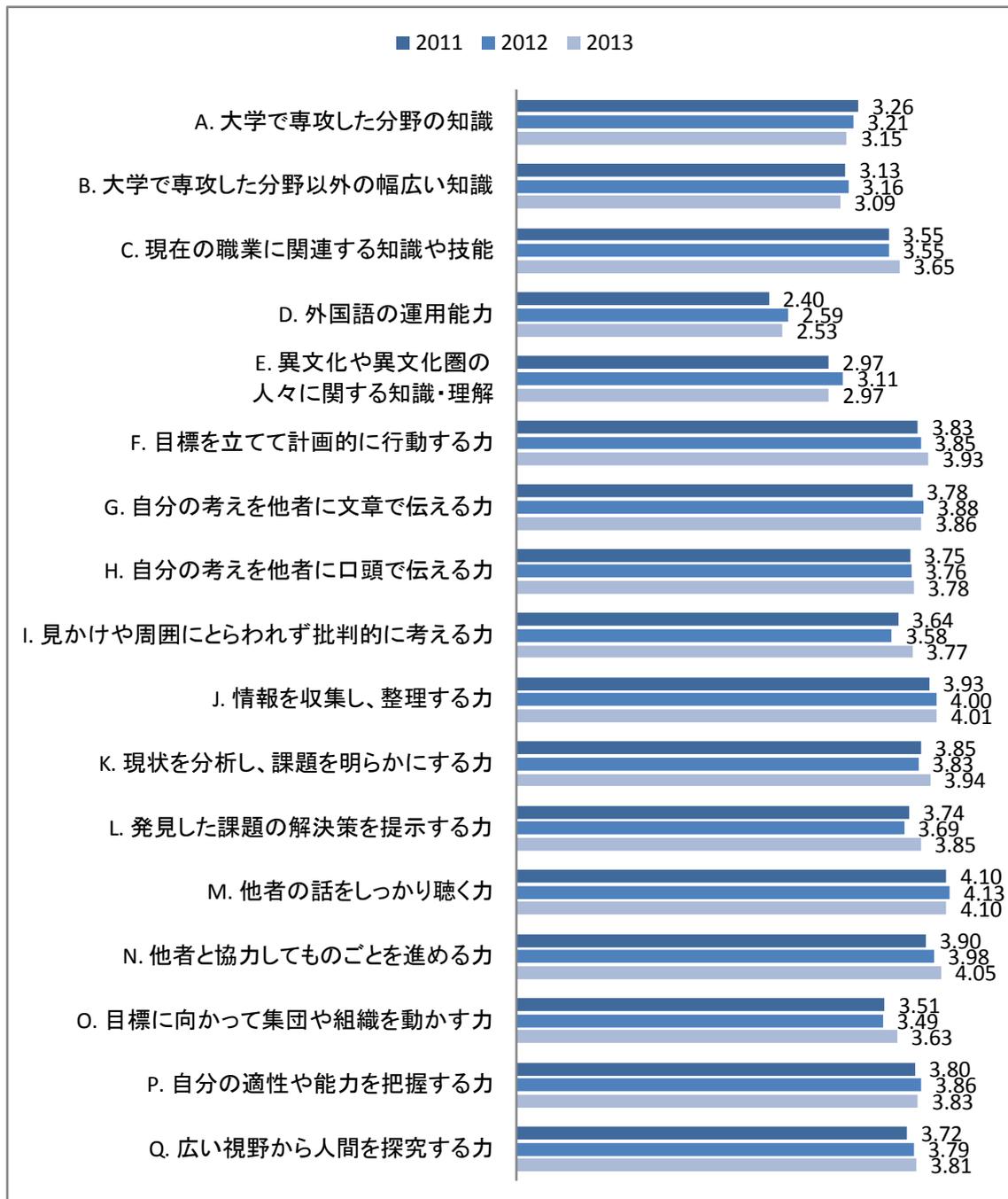
(「現在仕事はしていない」を0として、「とても満足している」(4)～「全く満足していない」(1)の5件法)



※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

A、C、Dの回答は、平均で3を超えており満足しているといえるだろう。Bについては、過去2学年よりも低い結果となっており、処遇があまり満足できないと感じられる傾向になってきているように見受けられる。2013年卒より新規に尋ねたEやFも、3に近い値であり、満足度は高めであるといえるが、継続的な観察が必要だと思われる。

Q27 現在、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけていると思いますか。
 (「しっかり身につけている」(5)～「全く身につけていない」(1)の5件法)



A、Bの知識はQ16(大学卒業時)と比較して低下傾向にある。また、Dの外国語の運用能力にはほとんど変化がなかった。E以降の知識や能力については向上傾向にあり、その伸びは平均で0.2～0.4程度であった。3学年の差はあまり見受けられなかった。